

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	認知症高齢者グループホーム わかば苑		
所在地	山口県長門市三隅上5109-1		
電話番号	0837-42-0051	事業所番号	3578000188
法人名	特定非営利活動法人 裕心会		

訪問調査日	平成 21 年 7 月 28 日	評価確定日	平成 21 年 10 月 28 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人 非常勤 2 人 (常勤換算 8 人)

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	21,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無	
食費	朝食	300 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	0 円	
その他の費用	月額	15,000 円			
	内訳	光熱水費・日常生活費			

(4) 利用者の概要 (6月24日現在)

利用者数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
	要介護1	5	要介護4			
	要介護2	2	要介護5			
	要介護3	2	要支援2			
年齢	平均	78 歳	最低	68 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 桑原医院
	歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

職員は30才代~70才代と幅広い年齢構成で、利用者の気持ちを共感しながら、良いチームワークを構築しサービスを提供されており、利用者も穏やかに過ごされています。利用者や家族の思いや意向の把握に努め、毎月1回全利用者を対象とした処遇会議を開催し、「ケア記録」や「モニタリングシート」を基に、全職員で話し合い介護計画を作成しておられます。

(特徴的な取組等)

育児中の職員は、子連れで出勤できるよう配慮されており、利用者も乳幼児とのふれあいで癒しや喜びの効果があります。又、恵まれた自然環境の中で、生き生きと過ごしておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

外部評価の結果を運営推進会議で報告し、職員会議で話し合って重度化や終末期に向けた支援のあり方を検討されていますが、地域密着型サービスとしての理念や運営推進会議のメンバーの拡大、第三者委員の選任については、現在検討中です。

(今回の自己評価の取組状況)

管理者がリーダー3人に自己評価書を配布し、記入したものを持ち寄り話し合い、管理者と一緒にまとめたものを全職員で検討し、作成しています。理事長からも助言を貰っています。職員は自己評価の意義を理解し、サービスの質の向上に活かしています。

(運営推進会議の取組状況)

利用者の家族、民生委員、地域住民、有識者、行政担当者、理事長、管理者、職員等のメンバーで概ね2か月に1回開催しておられます。行事計画や利用者の状況等、施設の現状報告や評価結果報告等を行い、参加者からの質問に答えたり、地域の情報を提供して貰い、施設運営に活かされています。

(家族との連携状況)

月1回は、利用料の支払いの為家族の訪問があり、面会時や電話等で利用者の暮らしぶりを知らせたり、家族からの要望を尋ねたりしておられます。又、写真を沢山掲載したホームダよりを毎月1回送付されています。利用者や家族の意見や要望を傾聴し、介護計画や施設運営に反映される等連携を取られています。

(地域との連携状況)

地域の自治会に加入され、夏祭り、ふれあい祭り、花火大会等に参加されています。散歩の途中で農作業をされている地域の人々との会話や顔見知りの方が気軽に施設訪問できるように配慮をされ、歌や踊りで利用者や交流したり、花や野菜、果物などの届け物も頻繁にあり、施設も食材の買い物は地域の100円市を利用する等と気配りしておられます。

評価結果

内

項目		印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>開設時に作った『友情・信頼・尊敬・感謝・博愛』という法人の理念を掲げているが、地域密着型サービスとしての理念の検討は、まだ充分ではない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての理念の検討</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>法人の理念を食堂に掲示し、ミーティング等で意識啓発するなど、全職員が理念や方針の実現にむけて、前向きに取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、夏祭りや花火大会などの地域行事には積極的に参加し、散歩等で顔見知りになったり、ボランティアの訪問や花や野菜の差し入れも多い。地域の顔見知り気軽に来所される等地元との交流に努めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>理事長を含め全職員が自己評価や外部評価の意義を理解している。管理者・看護師・計画作成担当者等で相談し作成し、全職員と検討し、意見を取り入れて評価としている。1年の振り返りとし、サービスの質の向上に努めている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>概ね2か月に1回開催し、利用者の家族、民生委員、地域住民、他施設のケアマネジャー、市職員、理事長、管理者等のメンバーで状況報告や評価報告等しているが、地域住民の参加が少ない。</p>	<p>・メンバー拡大の検討 ・運営推進会議の活用</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>様々な問題や困った時など積極的に連絡を取り、市の担当者と共に解決に向けて取り組んでいる。</p>	

項目		印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用料は毎月家族が持参する仕組みで、面会や電話連絡時、利用者の暮らしぶりや金銭管理、職員の異動を報告し、家族の要望等を聞き支援に活かしている。毎月写真いっぱいホーム便りを発行し家族に送付している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話、運営推進会議等で家族の相談や苦情を聞き、施設の運営に反映させている。苦情相談窓口や担当者を定め、外部機関と共に明示しているが、第三者委員の選任は検討中である。	・第三者委員の選任と明示
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員9名を確保し、利用者や家族の状況の変化や要望に応じて勤務調整に努めている。職員の急病や急な休みの時は、職員の勤務交代や理事長、管理者で対応できるよう柔軟な体制を取っている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	働きやすい職場づくりに努め、育児中の職員は子連れの勤務も可能で、職員の離職を最小限に留める工夫をしている。家族の転勤等やむを得ない場合は利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修、外部研修とも勤務の一環として参加している。外部研修参加者は、内部研修の講師として復命研修し、業務に活かし、ケアの質の向上に努めている。又、処遇会議等で支援のあり方などについてトレーニングしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修にも積極的に参加したり地域内の同業者との情報交換や交流、相互訪問を通してサービスの質の向上に努めている。	

項目		印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>家族と相談しながら事前訪問(自宅・病院等)をする等顔なじみになり、施設見学を実施し、他の利用者や職員と一緒にお茶を飲んだりして、馴染みの関係づくりをしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>食後の後片づけ、掃除、野菜づくりなど、職員と利用者が話し合いながら行い、一日を一緒に過ごす中で、種まきの時期や花の名などを教えて貰ったりと、支えあい協力し合う関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で、会話や行動などの気づきを「ケア記録」に記入し、処遇会議等で全職員が共有し、支援している。思いの把握が困難な場合は、家族と相談したり職員間で話し合い検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月1回処遇会議を開催し、「ケア記録」やモニタリングに基づいて全職員で話し合い、利用者の思いや意向、家族や主治医の意見を反映した介護計画を計画作成担当者が作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3か月に1回モニタリングをし、6か月に1回の見直しを行うと共に、状況に変化が生じた場合は、その都度話し合い見直しをして新しい介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>病院への受診時の送迎や付き添い、理美容院への送迎、遠方の家族の場合の買い物介助等本人や家族の状況やその時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	

項目		印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者のかかりつけ医との関わりを大切に、希望に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医への受診は基本的には家族の付き添いだが、毎日の状態(バイタル)などは看護師が連絡帳で医師に情報を伝える等連携を密にしている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時に重度化や終末期の対応についての事業所の方針を口頭で説明している。現時点では終末期の対応はしていないが、重度化した場合はできるだけ早い段階から家族や主治医と相談し対応を決めている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしていない。気になる言動があれば、職員同士で注意し、ミーティングで話し合ったり常に注意している。個人情報(記録物)は事務室の鍵のかかる書棚に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴などの時間は概ね決まっているが、起床や朝食等、日々、その日の利用者の体調や気分に合わせて支援し、自由に過ごせる場の提供や外に出たい時には、気持ちに寄り添うように散歩の支援をする等一人ひとりのペースを大切にしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで調理し、利用者の好みや要望に配慮して管理栄養士が献立を作り、下準備・配膳・下膳・テーブル拭き等もできる人が気が向いたら手伝えるように支援している。職員も同じテーブルで同じ物を食べながら、楽しく食事が出来るよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は、基本的には隔日15時~17時頃と決めているが、利用者のタイミングに合わせてゆっくりと楽しめるよう工夫している。希望により、毎日入浴や夜間入浴も可能な限り支援している。入浴しない時は、シャワー浴・足浴・手浴・清拭等利用者の状況に応じて工夫しながら支援している。	

項目		印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎月1回の外出行事(季節毎の花見・花火大会見学・秋吉台ドライブ等)、誕生会、ぬり絵、トランプ、風船バレー等の楽しみ事や気晴らし、部屋の掃除、野菜作り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き等の活躍できる場面を作り、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	殆ど毎日、周辺の散策、買い物、花見、外食、ドライブなどその日の利用者の希望に添った外出が楽しめるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては全職員が理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関に鍵をかけることの弊害について理解しており、ドアの開閉が察知しやすいようにチャイムをつけたり、利用者の様子をみながら声かけをしたり、一緒に散歩するなどの支援をしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはっと報告書に記録し、対策会議をして再発防止に努めている。転倒など一人ひとりの状態を把握し、事故につながらないよう介護計画に取り入れて支援している。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルを作成し、応急手当等について看護師による勉強会を行っているが、利用者の急変や事故に備えた定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年1回、消防署の協力で夜間想定を含めた避難訓練を実施している。運営推進会議で議題にし、地域の消防団の協力も得られるようになった。	

項目		印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は個人記録にファイルし、職員は薬の目的や副作用、用法・用量を理解している。看護師が個人毎の薬箱に入れ、服薬は職員が手渡して服用まで確認している。変化が生じた場合は直ちに主治医にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、声かけをし、歯磨きや塩水うがいを実施し、一人ひとりに応じた支援をしている。義歯は2週間に1回洗浄液に浸し消毒し、歯ブラシは汚くなったら交換するようにしている。	・歯磨き指導や義歯、歯ブラシの消毒の徹底
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、食事・水分摂取量を記録し、一人ひとりに合わせた支援をしている。管理栄養士の資格のある職員がおり、季節の食材を取り入れた献立作成やカロリーチェック等、バランスの良い食事の提供に努めている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルに基づき、手洗い・消毒の徹底や予防接種は毎年行っている。看護師や栄養士の指導により感染症予防や、新鮮な食材の確保等充分注意している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間が広くて明るく、随所に季節の花が飾られている。食堂に隣接した畳の部屋は、家庭と同じ雰囲気でも過ごせるようテレビが置かれ、床の間には生花が生けられ、利用者の憩いの場になっている。窓から眺められる田園風景は、季節を感じながら快適に過ごせるよう工夫されている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはベッドや洗面台が整備されており、利用者は使い慣れた筆筒や布団などを持ち込み、家族の写真を飾って居心地良く過ごせるようになっている。どの居室も広い窓があり、自然環境に恵まれた外の景色が見渡せられるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	特定非営利活動法人 裕心会
所在地	〒759-3801 長門市三隅上5109-1
電話番号	0837-42-0051
開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

入居者の方が、家庭的な穏やかな雰囲気の中で、おひとりお一人が主体的に个性的に生活できるようにサポートしていきたい。

【実施ユニットの概要】 (6月18日現在)

ユニットの名称	認知症高齢者 グループホーム わかば苑		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護1	5	要介護4
	要介護2	2	要介護5
	要介護3	2	要支援2
年齢構成	平均 78 歳	最低 68 歳	最高 90 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者を中心に、他職員と相談・確認しながら記入した。
評価確定日	平成 21 年 6 月 24 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		個々のサービスは勿論、地域の同世代の人達に苑への訪問をお願いしていきたい。
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	職員会議等で意見交換し、理念を共有している。	職員会議で話し合うようにしている
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>	「友情・信頼・尊敬・感謝・博愛」を苑是としている。	ご利用者への尊敬と優しさを最優先し、職員間ではお互いの信頼関係を基に職員会議等で話合っている
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>	運営・管理については常に公開を原則とし、最良のサービスに努めている。	開かれたグループホームをモットーとし、サービスに努めてる
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	グループホームが施設でなく「家庭生活の延長線にある」事を常に、PRしている。	地域の方々のグループ(イキイサロン)で訪問して頂き、利用者様とのレクリエーション等の交流を楽しみにしている
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえよう日常的な付き合いができるよう努めている。</p>	行事参加等により、顔見知りの方には、気軽に声かけし立ち寄れる状況にはある。	気軽に声をかけて頂けるように努めていきたい
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	地域の催しに参加し、交流に努めている。	
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	現在は取り組んでいない	努めていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価による改善点や指摘事項については、日々の業務や会議により論じ合い改善している	職員会議等で論じ合い改善していきたい
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	委員の皆さんにホームの意義、目的の理解を求めながら、住民からの意見を求め、サービスに活かしている	委員の一部の方に2年に1回程度交代して頂き、GHの理解を広め(深め)、様々な意見を取り入れていきたい
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	行政担当者は、足繁く苑を訪問し、苑のあり方を助言されたい(その事が地域密着の意義だと思う。)	現場(苑)と行政の連携がサービスの向上に繋がると感じている。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	該当する利用者の受け入れが現実化した場合には、対応できる心積もりはある、成年後見制度等々全てにおいて、全職員が理解しているとはいえない。	具体的研修等があれば、積極的に参加していきたい
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待は無い。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に十分説明しているが、入居後も疑問点があれば質問して頂き、理解を深めるよう対応している。	入居時によく説明し納得して頂くよう努めている
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の不満は処遇会議等で確認し合い、苦情窓口は重要事項説明書にも記し、玄関、廊下にも掲示している。また、ケアマネから必要に応じて家族と定期的に連絡をとりながら要望等あれば言っている。	苦情等あれば、謙虚に受け止め業務に活かしていきたい。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月家族へ通信を送っており、必要に応じてケアマネからも報告している。	健康状態の悪い時等は、面会時や電話などで報告を密にしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		できる範囲で、要望に努めていきたい
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		毎月の処遇(職員)会議を密にし、改善に努めている
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		今後も積極的に参加していきたい。
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		GH協議会や長門地域の施設看護師の集い等に参加し、意見交換等を行っている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	時々、食事会を行い職員間での意見交換を行い親善を深め、働きやすい環境づくりに努めている。		更なる改善に努めたい
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	各種研修に参加し福祉への理念の徹底を計って常に向上心をもって業務従事している。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	一心同体の理念で勤務しているが、待遇等の改善向上に努めたい		事業開始5年経過し運営の難しさも感じているが、待遇改善を今後の課題としたい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	聞き取り、面談を十分に行っている		今後もより強い信頼関係が持てるよう努めていきたい
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	定期的にケアマネから連絡をとっているし、現場において急を要する事項においては聞き取り・面談を双方が理解できるよう行っている		更なる要望があれば対応していきたい
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見極めは必ず行っているが、他のサービス利用を含めた対応は出来ない		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者が安心できる生活の場であるよう、家族と相談しながら対応している		安心して生活できるよう家族等と相談しながら努めていきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常生活の中で、会話を多く持ち信頼関係を築いている。		利用者様夫々に沿ったお話をするように努めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		状況によって利用者同士が関わり合い支えあえる関係を築くよう努めたい
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		関わりを必要とする家族があれば対応していく
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		センター方式にて把握に努めている
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		日々生活中で起きた小さなトラブル等も報告し、職員間の共通認識としている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を使い、全職員と話し合いケアマネが介護計画書を作成している	毎月の処遇会議にて意見交換をし、職員の見解等も反映しながらケアマネが作成している
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月の処遇会議において、見直し等を行い、利用者の現状に応じた計画を作成している	同上
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子はケース記録に記入している。全職員が情報交換し、共有しながら実践し、見直しに活かしている	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議等で協力・支援を呼びかけているし、火災発生時の対策として消防署に依頼し利用者にお話をしていたりもする	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ご要望があればいつでも開放している	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		GH利用が難しい状況になった場合、家族の要望があれば他施設との連携をとりながら、支援していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		身体の状態や必要に応じての服薬等は、看護師と相談し、必要に応じて協力医へ受診している
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		退苑時には、退苑サマリを次施設へお渡しし、その後も、不明な点については相談に応じている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	全職員がプライバシーの保護に努めている	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	利用者の希望は十分に聞き、個々の出来る力に合わせて自己決定できるように働きかけている	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	利用者の出来る力、希望に添って支援している	配膳、買い物等はよくお手伝いされ、そのお気持ちを大事にするよう努めている
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	その時々(日々)の利用者の気持ちをくみ取りながら声をかけをし、日々を過ごしていただいている	散歩・レクリエーション・遊び(トランプ・将棋)等、利用者の気持ちに沿って行って(声掛け)している
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	各々のライフスタイルに合った物を提供できるように支援している	移動理容美容店(車)に依頼し、2~3ヶ月に1回程度行っている
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	声かけをしながら、準備や片付け等もして頂き、個人の好みも把握している	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	現在の入居者の方には酒やたばこの希望者はいない。コーヒーやおやつは利用者様全員と毎日会話しながら楽しんでおられる(コーヒー・おやつはお楽しみの一つ)	希望がある時には、状況により柔軟に対応できるように努めたい
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	トイレ誘導を時間をチェックしながら行っている。	プライドのある方が失敗された時には、さりげないフォローを心掛けている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1日置きに入浴していただいている。皆さん入浴はお好きで、楽しんでおられる。		昨年までは毎日の入浴でしたが、かなりの時間を要するようになり1日置きとしているが、要望があれば夏場にはシャワー浴も考えている
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	個人の希望に沿って支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ボランティアによる演芸等の受けいれや野菜作りや草取りなど、出来る範囲で支援している		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々のADLや状態、希望に応じ、お金を所持して頂くか、苑で預かっている。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個々の希望に沿っての外出は職員数の面で難しい時があるが、散歩や買い物等、出来る範囲での努力はしている。月1回のドライブ、外食は行っている		今後も出来る範囲で対応していきたい
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している。	家族と相談し、外出できる様に支援している		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望に沿い、自由に利用できる。状況によっては代行している		ご自分で手紙を書いたり、電話をかけられる方もある
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できるようにしている		常識の範囲内の面会は常時受入れており、ご家族や親戚の面会も心地よく過ごせるようにしている。
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望があれば対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年に1回の花火大会への参加を呼びかけている		ご家族の参加は難しいのが現状であるが、参加しやすい状況や日程等を考慮し、声をかけていきたい
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制や拘束などはしていない		
75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかけない。		玄関にはブザーをつけて対応している。
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	勤務職員が常に見守りをしている		同上
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品は預かって、必要な時使用して頂いている		
78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時のマニュアルはあるが、職員の研修訓練が不十分である		無断外出に対してのマニュアルを作成しており、駐在所と地区消防団へ利用者の写真入り名簿を渡している。
79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	同上		消防署へ依頼し、救命手当等の講習を検討している
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリハット(事故)報告書に記入し、全職員が確認し防止の為の対策を話し合っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に訓練を行っている。地域の協力を得られる様になっている		地区の消防団にお願いし、協力を得ている
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	話し合い等で発生した問題点等は、ケアマネや職員がその都度家族に報告している		報告と共に、ご家族の要望はケアマネを通じ伺っている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化等を認めた時点で、早急に対応し家族へ連絡している		緊急を要する事態には協力医に連絡し、場合によっては救急車を依頼したこともあった
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	看護師が個々の服薬の一覧表を作成しており、確認しながら、必要に応じて医師に相談している		協力医の好意による毎月1回の往診により、素早い対応が出来る体制となっている。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日の排便チェックを行っており個々の状況に応じて、薬や水分量等で対応している		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、歯磨きとうがいをを行うよう声掛けを行っている		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が栄養バランスの良い献立を立てており、必要に応じて管理栄養士に相談しながら個々の状態に合った献立に変更している		糖尿病の利用者様には、管理栄養士指導の下、摂取量の調節等により病状改善にも取り組んでいる。
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルは作成している		研修等に参加し、職員間で情報交換し更に知識を高めていきたい
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な食材確保の為に2日に1回の買い物をしている。職員の台所入室時や、利用者様の食前やおやつ前には手指の消毒を必ず行っている。		毎食前の消毒の継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	苑周りは広く、玄関はいつでも出入り自由になっている	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は明るい作りになっており、季節の花々を生けて季節を感じて頂いている。利用者の要望があればその都度出来る範囲で対応している	床の間・玄関正面には毎日季節の花を生けている。利用者様のご希望があれば自室の洗面台やお仏壇にもお花を提供している。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホール・談話室・自室で自由に過ごして頂いている	談話室(和室)にもテレビを設置し、冬はこたつ等でくつろいでいただいている。
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の希望に応じた家具等を使用して頂いている	自宅で使い慣れたものを持って入居されており自由に使用されている。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的に換気を行い、利用者のご希望を聞きながら温度調節を行っている	今年は、暑さ対策でグリーンカーテン(へちま)等も考えている。
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	手摺を設置しており、必要に応じて使用している	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱などのある人は、自室の前に大きく名前を書いたり、目印をつけたりしている	防ぎきれない失敗等は、職員間の連携を密にし声掛けのタイミング等により、なるべく他の利用者様の目に触れないようにしている。
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や花壇があり希望者は利用しており苑周りも広いいため個々での散歩にも利用している	花の水やり等、利用者様にも関わっていただけようように声掛けをしていきたい

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1 回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1 回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない